

浦ノ内湾における赤潮発生予察情報 22-2

【概要】

- ・ 令和4年4月19日に発出した赤潮予察情報22-1で、カレニア・ミキモトイが5月ごろに赤潮を形成する可能性が高いことをお知らせしました。
- ・ 令和4年5月6日に当該プランクトンの細胞密度が1,000細胞/mLを超え、漁業被害が想定される細胞密度に達しました。
- ・ 本日（令和4年5月13日）、大鹿定点における当該プランクトンの細胞密度が9,400細胞/mLに達し、海域の着色も確認されました。
- ・ 例年、当該プランクトンの赤潮は5～8月に発生しており、早い時期（5月ごろ）に赤潮が発生した年は、規模が大きく（細胞密度が高く、発生期間が長い）なる傾向があります。
- ・ 今後、当該プランクトンにとって好適な環境が続けば、細胞密度がさらに上昇し、発生期間が長期化する可能性が高いと考えられますので、十分注意してください。

【赤潮発生予察について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予察マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予察を情報提供することとしました。

【カレニア・ミキモトイの予察マニュアル】

- ① 海水中のカレニア・ミキモトイの遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が100細胞/mLを超えると、平均1～2週間で赤潮が発生
（これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長80日）
- ③ 発生時期が早い（例えば5月中の発生）と、大規模な赤潮になりやすい
（大規模：細胞密度が高い、発生期間が長い）
- ④ 深度5mの水温が20℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

※この予察情報は、本年度から提供を開始するもので、今後精度向上につとめていきます。予察どおりにならないことも考えられますので、現場の状況に十分注意して、養殖作業を行ってください。

以上